

令和4年度 第4回 舞阪中学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年2月24日（金） 13時20分から15時00分まで
- 2 開催場所 舞阪中学校 1階 会議室
- 3 出席委員 渡邊 東一、鈴木 孝一、河合 數馬、小内 正枝、片桐 美恵子、本多 有美、  
佐々木 雄一
- 4 欠席委員 江間 雅尾
- 5 オブザーバー 河合 一徳（舞阪協働センター副所長）
- 6 学 校 中村 真由美（校長）、川合 公孝（教頭）、鈴木 朱美（教務主任）、  
榊原 大輔（CS担当職員）、宮崎 友貴（CSディレクター）
- 7 教育委員会 なし
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項

- (1) 今年度の学校関係者評価について
- (2) 来年度の学校運営の基本方針について
- (3) 今年度の学校運営協議会についての自己評価

10 会議録作成者 CSディレクター 宮崎 友貴

11 会議記録

司会の榊原大輔（CS担当職員）から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。議長は前回承認された本多有美委員が務めた。

(1) 今年度の学校関係者評価について

鈴木朱美教務主任から、別紙資料に基づき、学校評価の結果と今後の改善方針について、次の説明があった。

- ・昨年12月に生徒・保護者・職員の三者を対象に自己評価アンケートを実施。その結果を本校の重点4項目別に考察し、それぞれ次年度へ向けた改善の方策を提示した。

議長から、学校の自己評価について各委員に気づいたことを挙げるよう提案があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・「悩みを相談できる相手がいる」の項目で「そう思う」「ややそう思う」と回答した2年生が少なかったことが気になった。舞阪町は1町1校で小・中学校の一貫教育ともいえるため、いじめ根絶に向けた取り組みとして舞阪小学校との情報共有や意見交換、合同研修は大変良いことだと思う（片桐委員）
- ・「時間やルールを守って生活している」の項目に問われる生活習慣は幼い頃から身につける必要があり、家庭や学校は子供達が理解できるよう話をする必要がある。部活動は、学校の中だけでは対応が難しくなっているだろう。現状はどうだろうか（鈴木委員）

鈴木委員の発言を受けて、中村真由美校長より部活動の現状について説明があった。

- ・野球部のみ部員数が少ないため他校との合同チームで活動している。町内に少年団がない競技は部員の確保が難しい。来年度あり方を検討していく予定である。
- ・地域クラブへの移行は土日のみであり、学校から部活動がなくなることはない。

中村真由美校長からの説明を受けて、委員からは、以下の発言があった。

- ・子供の興味は多種多様であるが、格差が出てきている。学校教育の中で実施するのは難しいかもしれないが、地域での対応はばらつきが出るため、学校内で等しくできるものがあるとよい（鈴木委員）

引き続き、委員から以下の発言があった。

- ・自己評価に対しての対策がしっかりと練られていて素晴らしいと思う。「確かな学力」については「将来の夢」・「進路決定」・「日々の授業」が三位一体である必要があり、三者が橋渡しできるとよい。「いじめはどんな理由があってもいけないうことだと思う」の項目で保護者が「そう思う」と回答した人が少ないので、これが80%ぐらいになるよう保護者に働きかけが必要ではないか（渡邊委員）

渡邊委員の発言を受けて、中村真由美校長よりいじめ項目についての補足説明があった。

- ・保護者に対しては「いじめを許さない取り組みをしていると思う」という項目であり、その値が低いということは、保護者は学校のいじめ対策についてシビアな目で評価しているとも言える。

引き続き、委員から以下の発言があった。

- ・先生も地域も親ももっと「いじめはいけないう」と強く思わなければならない。はっきりダメだと言える大人を増やしていく必要がある（片桐委員）
- ・「自分から進んであいさつができる」の項目が生徒80%に対して職員は50%を超えない。私は朝のあいさつ運動をしているが、生徒からあいさつする子もいるが、こちらがあいさつしても何も返さない子もいて生徒の80%も達していないと感じる。朝のあいさつはとても大事なので指導してほしい（河合委員）
- ・私も、生徒のあいさつについては50%もいかないのではないかと思います（小内委員）
- ・家庭では「いってらっしゃい」「いってきます」のあいさつが親子で自発的にできる環境だろうか（鈴木委員）
- ・（鈴木委員の発言を受けて）子供よりも私の方が早く家を出るためわからない。子供を信用しているがあいさつできているのか心配（小内委員）
- ・（小内委員の発言を受けて）家庭内でできていないのに外（学校）でやれというのはハードルが高い。日頃からの習慣が大切。昔は舞阪町全体が家族という雰囲気があり、あいさつができていた（鈴木委員）
- ・計画を立てて勉強することも大切だが、定着度も見てほしい（小内委員）
- ・「舞阪が好きだ」の項目で「そう思う」と回答した生徒が少ない。これはコロナで3年間も祭

が実施されず、地域とのつながりがなくなってしまった影響ではないか。この地域にとって大切な文化であるため、何らかのつながりの場がほしい（佐々木委員）

- ・音楽発表会（潮鳴祭）を外部のホール（サーラ音楽ホール）で実施したのは良かった。生徒に対する効果はどのようなものがあるか（佐々木委員）

佐々木委員の発言を受けて、鈴木朱美教務主任より生徒に対する効果について説明があった。

- ・非日常の空間に身を置くことで緊張感が生まれて姿勢もよくなり、響きの良さに高揚する。当日は生徒全員がステージに上がってリハーサルをしてから本番に臨んでおり、文化的にも高い所を目指したい。

引き続き、委員から以下の発言があった。

- ・潮鳴祭はとても良く、最後まで聞かせてもらった。ただ、サーラ音楽ホールは遠くてアクトシティの方が行きやすい。雄踏文化センターはどうだろうか。コロナが治まったら来賓を増やしてもよいのではないか（片桐委員）
- ・雄踏文化センターの規模では学年ごとの入れ替え制になる。来年度はアクトシティ浜松のホールを利用する予定である（中村真由美校長）

## （２）来年度の学校運営の基本方針について

中村真由美校長から、別紙資料に基づき、令和5年度の学校運営基本方針案について説明があった。委員からは特に発言はなく、承認された。令和5年度の第1回学校運営協議会にて、実態に即して再度協議を行うこととなった。

## （３）今年度の学校運営協議会についての自己評価

議長より、今年度の学校運営協議会の自己評価を行いたいと発言があった。各委員が3つの評価項目について考えをまとめ、それを基に熟議を行った。各委員からの発言は、以下の通りである。

- ・評価項目の1と2については、できていたと思う（全委員）
- ・来年度は学校経営目標の「たくましく生きる『自立』」は『自律』と捉えて、「自らを律する」ためにはどのような教育が必要であるか熟議したい。成人年齢が18歳となり、中学生のうちから判断する力を身に付けることが必要だと思う（鈴木委員）
- ・日本人はお金の話をするのがよくないという風潮がある。金銭感覚を養うためにも、金融関係の方を招聘するなどしてタブー視せずに向き合ったらどうか（片桐委員）
- ・人と人との出会いの中で様々な感性を磨き、経験・体験することが重要。学校や地域でどのような取組をしていくか、知るところから始めて将来どうなっていくのか、みんなが関心を持つことをしないと心配である（鈴木委員）

#### その他報告事項等

榊原大輔CS担当職員から「いじめ防止等のための基本方針」を改訂したと報告があった。

中村真由美校長より、校則の見直しについての説明と進捗状況の報告があった。

川合公孝教頭から、夢育やらまいかCS加算分についての報告があった。

続いて、川合公孝教頭より、来年度の運営協議会の委員と開催日時について説明があった。

- ・委員8名のうち7名は来年度も継続、1名は他の委員と代わる予定である。
- ・会議は、別紙資料の通り、年4回開催予定である。

来年度第1回の会議は、令和5年5月11日（木）午後1時20分から1階会議室で開催する旨の報告があった。議長の選出について、議長から佐々木委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。